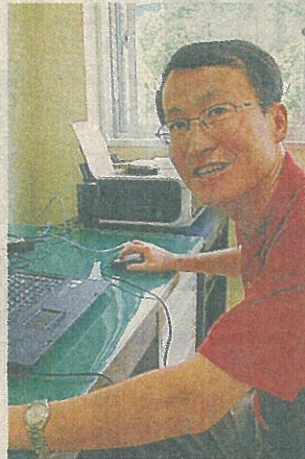


中国からの研究員

ちん 陳 さん
えつ 越 さん

厦門(アモイ)理工学院から今月、学術交流校の佐世保高専に研究員として派遣された。来年二月まで学校管理や授業の手法などを学ぶほか、中国語講座も受け持つ。大学で日本語を、大学院で東南アジア史を専攻し、日本の商社の中国事務所で働いた経験もあるが、長期の日本滞在は初めて。「言葉だけでなく、



文化理解し交流促進

日本の文化、学生や教職員の考え方などを理解することが交流の成功の鍵」と来日の動機を流暢な日本語で語る。

「日本の教職員は勤勉で仕事も自発的。一方で中国の学生は日本のように授業中に居眠りしたり、おしゃべりはしない」とも。経済発展が目覚ましい中国は学歴社会化が急速に進み、進学率は右肩上がり。約七千人の同学院の学生総数も九月の新学期からは約一万人に増えるという。

「厦門はビルが林立し緑が少なく。佐世保は自然が美しく、庭付きの家が多くてうらやましい」。インターネットのテレビ電話で中国にいる妻、長男との会話が日課。三十八歳。(佐世保)